

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 12月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872200809		
法人名	社会福祉法人 はりま福祉会		
事業所名	せいりょう園グループホームまどか		
所在地	兵庫県加古川市野口町長砂1076 (電話) 079-427-3532		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	2008年12月8日

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・ホームの近隣は昔からのたたずまいが残る住宅街である。立派な長屋門をくぐると正面が大きな旧農家である。手入れが行き届いた庭には小さな池があり鯉が泳いでいる。この母屋に隣接してホームの建物が建っている。ホーム内から庭や母屋を眺め、花や木や季節を感じることができ、利用者のやすらぎとなっている。近年利用者の重度化が進んでいるが、法人全体は総合的な施設であり、医療との連携も十分図られている。ホームとしても、利用者や家族の希望により、主治医や訪問看護師と連携を密にし、終の棲家として最期の看取りまで支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)	・2階入口はカーペット敷きであったが、床材をフローリングに変更し、カーテンをつけ憩いのフロアとした。ホームのお知らせ版は新聞の切抜きなどを貼り、社会の動きを実感してもらうようにしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)	・自己評価についてはその意義を職員全体で確認し、項目を分担して記入した。回覧して全体を共有し意見交換ができたので、日々の介護に対する振り返りになった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)	・3ヶ月に1回の割合で運営推進会議を開催している。民生委員、人権擁護委員、地域支援センター、家族、ケアマネ事業所管理者、ホーム管理者が出席し、ホームのケアの現状や利用者の生活状況報告、事業報告などを行い、意見交換を行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)	・家族会組織の話題は家族から出ているがまだできていない。面会の家族は多いので、その都度ゆっくり話し合う機会を作り、利用者の様子などを報告するとともに、意見や提案がないかを確認している。外部委員3名と施設職員3名からなる苦情委員会を月1回開催し、苦情解決や事故防止対策などを含めサービスの向上のために検討を重ねている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)	・自治会に加入し、地域の行事(夏祭り・秋祭り・敬老会・運動会など)や小学校の音楽会にも招待され、希望者が参加した。散歩時には住民の見守りや声かけがあり、少しずつ交流が進んでいる。しかし、住民が気楽にホームを訪問するような機会はまだまだなく、地域に溶け込むということが今後の課題である。

## 【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日(ユニット)	平成14年6月1日(ユニット)
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 15人
職員数	14人	常勤 6人, 非常勤 8人, 常勤換算 11人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建て	1~2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(68,000)	(100,000)	その他の経費(月額)	円
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(240万円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	300円	昼食	700円
	夕食	500円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	15名	男性	1名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	0	要介護4	2名		
要介護5	6名	要支援2	0		
年齢	平均 85.5歳	最低	75歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村内科医院、中井歯科医院
---------	---------------

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の理念として、自らが持つ力を十分に発揮しながら、最期まで誇りを持って安心して暮らしていけるようなケアの実践を行う。さらに利用者が住民の一人として地域の中に溶け込んで暮らしていけるような支援に目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・月に1度の職員会議や法人全体会議で理念を確認している。職員は日々の業務の中で話し合いを重ね、理念の実践に向けて努力している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入し、地域の行事（夏祭り・秋祭り・敬老会・運動会など）や小学校の音楽会にも招待され、希望者が参加できた。散歩時には住民の方から声を掛けてもらうなど、少しずつ交流が進んでいる。		・近隣の方が気軽に訪ねてこられるような機会をつくることを検討されてはどうか。ホームが持つ認知症に関する知識と技術を地域に提供し、認知症への正しい理解を広げていくことも大切な社会的役割である。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・今回の自己評価は職員が分担して記入し回覧を通して内容を共有したので、日々の介護に対する振り返りになった。第三者評価の意義については、管理者、職員とともに再確認をした。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・民生委員、人権擁護委員、地域支援センター、家族、ケアマネ管理者、ホーム管理者が出席し、3ヶ月に1回開催している。事業報告を中心に地域との連携の大切さなどを話題としている。地域からの認知症相談を受けることもある。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市担当者とは地域密着型として連携が取りやすくなった。書類を提出するなどホームからの情報を発信し続けているが、運営推進会議への出席を希望している。</p>		<p>・運営推進会議への市担当者出席を積極的に呼びかけ、日頃からの連携を密にしてほしい。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・面会の家族は多く、来訪時に利用者の日常の様子や健康状態などを報告している。体調急変時は電話連絡し、主治医の診断内容などを報告している。金銭に関しては毎月出納帳のコピーを郵送している。法人内の職員異動については家族に報告はしていないが、玄関に職員の写真を貼り出している。</p>		<p>・職員の異動は家族にとっての不安材料となり得る。信頼関係維持のため家族に報告することを検討してほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族から希望は出ているが家族会はできていない。来訪時に面会時間を作り、気楽に意見や不満を表明できるような対応を心掛けている。運営推進会議への参加を呼びかけているが、参加人数が少ないのが現状である。</p>		<p>・行事などで家族が集まる機会に家族同士の懇親会を行い、気楽にホームへの意見を伝えられる場づくりを考えられてはどうか。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・法人全体で適切な人材配置について検討し、職員の希望も考慮して必要に応じて異動を行っている。利用者には十分説明し、混乱が起きないように引継ぎに配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修は法人全体で実施し、希望者が参加して月1回の処遇会議で研修報告を行っている。外部研修は情報を提供し参加を勧めている。国家資格取得を目指すことを評価している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・隣接の2市2町でグループホーム協会を組織し、法人としては中心的に関わり講演会などを開催している。管理者間の交流も図られ、サービス向上のために参考になることが多い。また、協会の夜の勉強会には希望職員が参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・サービス利用前に本人や家族に見学していただき、ホームでの生活の様子を紹介している。段階的入所として、法人内の特別養護老人ホームのショートステイを利用し、共同生活に少しでも慣れてから入居される方もある。入居当初は本人が安心して生活されるまで家族に来院などの協力をお願いしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の有する力を見極め、できる方には生活の中で発揮できるよう支援している。料理方や縫い物などの家事については利用者から教わることも多く、ともに喜び支えあう関係となっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・発言しない利用者には寄り添い表情を見ながら声掛けし、心をキャッチするように努めている。利用者一人ひとりの今の思いに耳を傾け、その人らしく暮らせる支援ができるように全職員で話し合いを重ねている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者それぞれに担当者を決め、その人の小さな変化に注目し記録している。引継ぎ時などで意見を交換し、本人・家族や関係者とも話し合い介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・基本的には半年に1回計画見直しを行っている。その際に利用者の担当職員も交替し、利用者を新鮮な視点で見直すよう配慮している。状態の変化時には、利用者・家族や主治医などの関係者と話し合っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・医療連携体制を活かし、受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や看取り支援を行なっている。また法人全体で「介護者の集い」を開き相談に乗ったり、ホームのデイサービスの利用受け入れができるよう柔軟な対応を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・かかりつけ医の往診・受診、訪問看護師の定期訪問が行われている。受診は家族が介助するが、都合が悪い時は職員が介助支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時に終末期ケアについて説明し、希望者には看取りに至る介護への同意書に同意をもらう。状態変化に応じて、家族、主治医と話し合っている。職員は看取りの勉強会もしている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・人生の大先輩として敬意を持った言葉がけを心がけ、注意するのではなくさりげなく介助する等誇りを損ねることがないように努めている。個人情報事務室に保管し、職員同士の話し合いも利用者の前では行わないよう気をつけている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・起床、食事、入浴時間は本人のペースを尊重している。散歩も名札を持って一人で出かける人や、職員が離れて後からついて行く等希望にそった支援を心がけている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者にごしらせや、後片付け等できることを声かけして手伝ってもらっている。職員は食事介助を終えて、同じ食事を取る。自室で食事したい人には、個別対応をしている。誕生日会、郷土料理会等行事食も企画し、食事が楽しみになるよう工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・夜間帯以外は希望に応じて入浴できる。入浴が楽しめるよう、個々の好みのボディソープやシャンプーを用意して、介助の職員と会話を楽しみながら入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・洗濯物たたみ、ゴミを入れる箱作りのほか、散歩や中庭での気分転換など、役割、楽しみごとの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・民家の花を楽しみながらの散歩や近くの店への買い物など、利用者本位の外出支援がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室・玄関の施錠はしていない。鍵をかけないケアについて家族に話し、理解を得るよう努めている。一人で外出する利用者を気づかれないよう見守る職員を見て、近所の見守り協力も得られるようになった。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回避難訓練を日勤、夜勤時を想定して行っている。出火場所の設定等具体的なプログラムを作り訓練している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・食事量・水分量は生活リズム表に記録し共有している。食事は利用者にあわせ形態を変えたり、水分はいつでも飲めるよう何種類かの飲み物を置いている。嚥下困難な人には摂取しやすい飲み物を準備し、水分確保に努めている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・一階のホールのカウンターキッチンから野菜を刻む音や調理のにおいがし、広いガラス窓越しに庭が見え、生活感や季節感を感じられる空間である。二階のホールは造形教室や気が向いたとき一人で過ごせる居場所になっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・自宅で使っていた表札を居室の入り口にかけている利用者もいる。室内は使い慣れた家具や家族の写真、好きな花を飾っている。重度の人のベッド柵に職員が布でカバーを作り、見た目や肌触りが温かく心地よい工夫もなされている。</p>		

 は、重点項目。